

MODERN FRENCH PAINTINGS FROM

Hiroshima Museum of Art

印象派への旅

戦後 70 年 ひろしま美術館フランス絵画展



19 世紀後半に登場したモネやピサロら印象派の画家たちは、自然の光をみずみずしい感受性でとらえ直し、筆触分割によって明るい画面を実現するという革新をなしとげました。近代絵画はその後、スーラ、シニャックらの新印象派を経て、多彩な造形運動を伴った 20 世紀美術へと展開していきます。

本展では、別名“印象派美術館”として知られる「ひろしま美術館」の優れた西洋美術コレクションの中から、印象派を中心にバルビゾン派からエコール・ド・パリへと至るフランス近代美術 100 年の歴史を概観する名品 70 点を精選してご紹介します。

開催概要

会 期：2015 年 4 月 18 日 [土] - 6 月 7 日 [日]

会 場：新潟県立近代美術館 企画展示室

休 館 日：毎週月曜（ただし、5 月 4 日は開館）

開館時間：午前 9 時～午後 5 時（観覧券の販売は午後 4 時 30 分まで）

観 覧 料：当日 一般 1,200 円（1,000 円）／大学・高校 1,000 円（800 円）

前 売 一般 1,000 円／大学・高校 800 円

*（ ）内は有料 20 名以上の団体 *中学生以下は無料

*障害者手帳、療育手帳をお持ちの方は無料

*前売券販売所：NIC 新潟日報販売店、新潟伊勢丹などの県内プレイガイド、セブンイレブン、近代美術館・万代島美術館ミュージアムショップなど

主 催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST、
ひろしま美術館フランス絵画展実行委員会

特別協力：公益財団法人 ひろしま美術館、広島銀行

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟・フランス協会、NHK 新潟放送局、エフエムラジオ新潟、
FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、
燕三条エフエム放送株式会社、FM ながおか 80.7、新潟日報美術振興財団

お問い合わせ先：新潟県立近代美術館 学芸課（平石・佐藤・宮下）

〒940-2083 長岡市千秋 3 丁目 278-14 TEL.0258-28-4113 FAX.0258-28-4115

Email: kinbi@coral.ocn.ne.jp

開催趣旨

広島市の中心部に位置するひろしま美術館は、1978年（昭和53）11月3日、創業100年を迎えた広島銀行により設立されました。それは、原爆投下から30数年、平和文化都市の建設を目指して復興の道を歩んできた人々の心の希求に応えるものであり、愛とやすらぎをテーマに誕生した美の殿堂ともいえるべきものでした。本年は戦後70年という節目にあっており、新潟で同館を紹介する展覧会を開催できることには、二重に大きな意味があるともいえます。

本展では、別名「印象派美術館」とも呼ばれる同館の充実したコレクションの中から、特に日本人が明治の頃より親しんできたフランス近代美術100年の歴史を概観する名品を精選してご紹介いたします。

ミレー、コローなど自然の美しさを発見した写実主義の画家たち、明るい戸外の光や純粹な色彩を追求した印象派の画家たち、そして後期印象派を経て、多彩な美術運動を伴った20世紀絵画の世界へと誘います。珠玉の作品群の鑑賞を通して、西洋美術の魅力を堪能すると同時に、これらのコレクションにこめられた愛と平和への祈りを感じ取っていただければ幸いです。

図版：マネ《灰色の羽根帽子の婦人》1882年



展覧会の3つのポイント

1. ミレーとフランス風景画

農民に深い関心を寄せたミレーが描いた風景画には、生活感覚に裏打ちされた繊細な自然観察がみられます。写実主義のクールベはフランスの山河をあるがままに描き、印象派への道をひらきました。

図版：ミレー《刈り入れ》1866-67年



2. マネと印象派のパリ

1860年代に活躍したマネは同時代の社会を大胆に描き、ルノワールらは太陽の光を色彩分割でとらえてキャンバスに定着させました。パリは芸術の都としての繁栄を謳歌します。

図版：ルノワール《パリの審判》1913-14年



3. 20世紀絵画とエコール・ド・パリ

フォーヴィスム、キュビズムなど20世紀絵画が誕生し、芸術都市パリの求心力が高まります。シャガール、フジタ、モディリアーニなどエコール・ド・パリと呼ばれる一群の画家たちは豊かな叙情性を歌い上げました。

図版：キスリング《ルーマニアの女》1929年



展覧会トピックス

1. 平和のメッセージ〜がれきの果てに生まれた美術館

ひろしま美術館は、原爆による惨禍から辛うじて生き残り、その後、銀行員という立場にありつつ、フランス印象派を中心とした世界的名画のコレクションを作り上げた広島銀行元頭取、井藤勲雄^{いとういさお}氏が平和的な文化都市への願いをこめて設立した美術館です。戦後 70 年の今年、美しいコレクションを通して、平和の尊さをかみしめる機会としていただければ幸いです。

ひろしま美術館の外観



2. 新旧対決！パリ名所「ポン＝ヌフ」を描く

パリで一番古い橋ポン＝ヌフは、現代作家クリストが梱包し、また映画『ポン＝ヌフの恋人』（1991）の舞台になったことでも知られています。本展では、ピサロ、シニャック、マルケという新旧の巨匠が描いた絵画が出品されます。近代絵画の流れやパリの変化を感じていただければと思います。



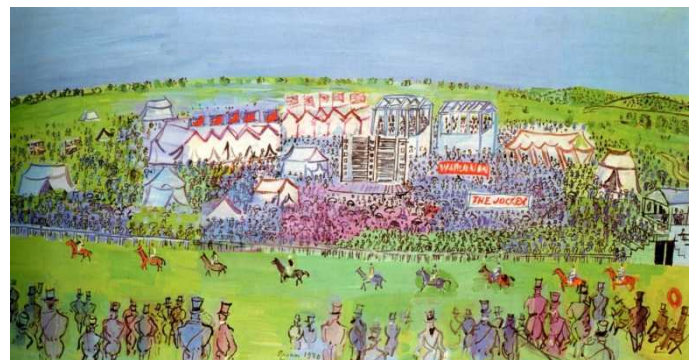
ピサロ 《ポン＝ヌフ》1902年

シニャック 《パリ、ポン＝ヌフ》1931年

マルケ 《ポン＝ヌフとサマリテーヌ》1940年

3. ハリウッドの悪役が愛した名画－ロビンソン・コレクション

アメリカ映画『キー・ラーゴ』（1948）、『十戒』（1956）、『シンシナティ・キッド』（1965）などで存在感を示したハリウッドの名悪役エドワード・G・ロビンソン（1893－1973）は、絵画コレクターとしても有名でした。没後、そのコレクションのフランス絵画部門がひろしま美術館の所蔵品となっています。本展ではモディリアーニ《男の肖像》、デュフィ《エプソム、ダービーの行進》、ルノワール《トリニテ広場》など。ハリウッド俳優の財力と懐の深さが感じられます。



ルノワール 《トリニテ広場(パリ)》1892年頃、モディリアーニ 《男の肖像》1919年、デュフィ 《エプソム、ダービーの行進》1930年

多彩なイベント

展覧会では多彩な催し物をご用意しています。「印象派への旅」を鑑賞して、さらに様々なイベントに参加すれば、フランス美術の世界をより深く満喫できることでしょう。

特別講演会

「フランス近代美術は何を求めたかーあるいは日本人はフランスに何を求めたか」

講師：馬淵明子氏（国立西洋美術館長）

4月26日（日）14：00～ 講堂にて 聴講無料

西洋美術研究の第一人者による講演会。フランス近代絵画史の奥深さと魅力をご紹介します。

コンサート

「パリ・ミュゼット」アコーディオン演奏：田中トシユキ

5月16日（土）14：00～ エントランス・ホールにて 参加無料

今最も注目されている楽器の一つアコーディオン。パリの音色に浸る午後のひとときをどうぞ。

美術館賞講座

「パリの陰影ー印象派誕生の謎を追う」講師：平石昌子（当館学芸課長代理）

5月23日（土）14：00～ 講堂にて 聴講無料

学芸員によるスライドトーク

5月3日（日）、17日（日）、31日（日）14：00～14：30 講堂にて 聴講無料

映画鑑賞会 14：00より 講堂にて 参加無料

①『巴里のアメリカ人』（1951年、113分）4月19日（日）

②『そして誰もいなくなった』（1945年、97分）5月9日（土）

①はガーシュウインの曲に合わせて踊るラストシーンが圧巻。②はA.クリスティ原作の傑作映画。

茶会

「こらぼ de 茶会」5月24日（日）10：30～15：30 呈茶：長岡大学茶道部 無料

毎年恒例になってきました茶道部によるお茶会。企画展に因んだ趣向が凝らされることも。

ワークショップ

「フランス色のコースターづくり～印象派の点描入門～」

5月2日（土）14：00～ 講座室にて 参加無料 要申込 定員20名

シニャック、スーラ作品をもとに、アクリル絵の具で点描してカフェ・コースターづくりを楽しみます。

図録

全出品作品のカラー図版を掲載した本展覧会のオリジナル図録を販売します。

音声ガイド

30点の主要作品について解説を聞くことができます。1台500円。